



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

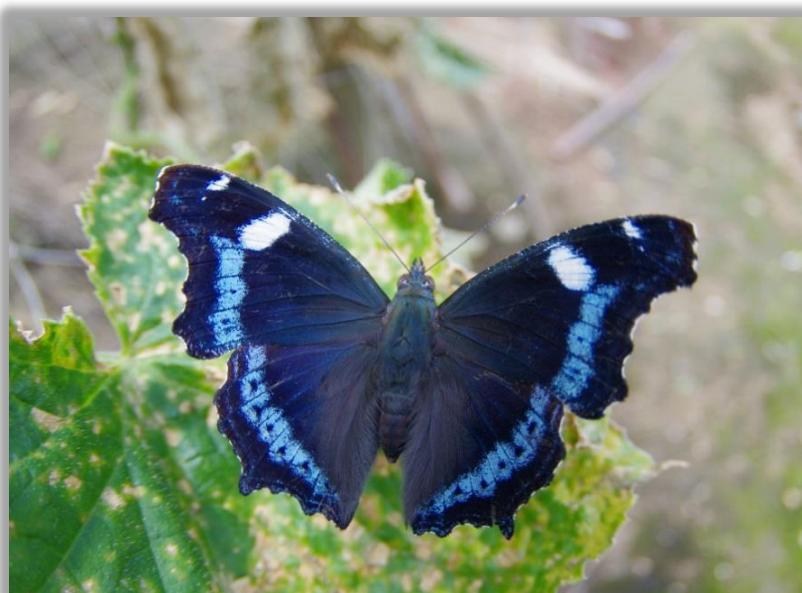
和名:ルリタテハ 学名:*Kaniska canace*

「瑠璃色をしたタテハチョウ」でルリタテハですが、瑠璃色をしているのは翅表外縁に沿った青い紋です。黒い翅に青と白の紋が目立ち、飛んでいても青が輝いて見えて、他に似た種類もいないのでわかりやすい種類です。

翅の裏面は褐色のまだら模様で、保護色になっています。サルトリイバラやホトトギス類が幼虫のホストなので、分布は広く、人里でよく見かけます。

成虫は、早春、越冬後の成虫が花に来るだけで、夏から秋にかけては、花ではなく、樹液や果物の汁などを吸って栄養にしています。夏の雑木林で、スズメバチやカナブンなどとともに樹液に集まっている姿を見かけることがあります。そのような時、翅を閉じていることが多く、裏面の暗い模様が役立つようです。日当たりの良い場所で活動するときは、翅を開いて止まっていることが多いようです。

成虫で越冬するので、暖かければ早春から飛翔する姿を見かけることができます。ただ、越冬した個体では翅が破れたり、色があせたりしています。



【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

